

教育支援センターだより

第10号 発行日 平成24年8月31日

子育てや家族、学校のことなどで悩んでいませんか？



【学校生活に関すること】

- ・ 不登校のこと、登校しづり
- ・ 集団にうまく入れない、友達ができない
- ・ いじめ
- ・ 勉強についていけない

【子どもの成長・発達に関すること】

- ・ 吃音やチックなど気になるクセがある
- ・ 言葉が遅れている

【養育に関すること】

- ・ 子どもの気持ちを理解したい
- ・ 反抗的になり接し方がむずかしい
- ・ 食欲がなくなったり、眠れなくなったりしている

【就学や進路に関すること】

- ・ 子どもに応じた支援先、進学先について知りたい

ひとりで悩まず、お電話ください

★ご相談の流れ

受付の電話 ☎:60-1899

- ・ 今一番お困りのことや相談の内容について簡単におうかがいします。
- ・ センターに直接来て相談したいか、電話で相談したいかおうかがいします。
- ・ 連絡先などをうかがい、実際に教育支援センターに来る日程や時間を決めます。

電話相談

ご相談の内容によっては、お電話だけで終了する場合があります

初回の相談

- ・ お電話で聞いたお困りのことについてさらに詳しくうかがっていきます。
- ・ うかがった内容をもとに見立てをお伝えします。
- ・ 教育支援センターでどのようなことができるか、方針をご提案します。

- ・ 終了
ご相談の内容によっては1回で終了する場合があります
- ・ フォローアップ
- ・ 他機関の紹介

継続して相談する場合

☆ 保護者の方とは…

お子さんについての理解を一緒にしながら、親御さんが責任と自信を持って子育てに取り組めるようサポートします。

☆ お子さんには…

カウンセリングやプレイセラピー【遊戯療法】で気持ちの安定をはかり、自分自身や自分の行動についての理解を深めていきます。

*お子さんの理解をより深めるために、相談のなかで取り入れることがあります

- ・ 知能検査、心理検査
- ・ 医療相談【囁託医による】
- ・ 学校、病院など他機関との連携、連絡

相談の終了

★6月27日に開催いたしました講演会の内容を抜粋して掲載いたします★

子育て中の保護者のみなさまに、お子さんの成長や発達を見守る上で参考としていただければ幸いです。

「不登校って何だろう？」

～適応指導教室(チャレンジルーム)の子どもたちと関わる中で」

松澤茂久 先生(武蔵野市教育支援センター アドバイザー)

◆◆◆不登校はなぜ増えた◆◆◆

不登校が急激に増えた 1980 年代(昭和 50 年代後半)を振り返ると 4 つのキーワードが見えます。

① 豊かで便利な社会

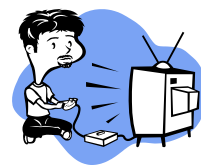
・進学が容易にできるようになり、がんばって勉強し、就職して安定した収入を得ようという目標や向上心が薄れ、我慢する力が弱くなった

② 少子化の進行

・兄弟・姉妹が減り、人間集団の基礎単位である家族の中で揉まれ合う機会(人間関係の練習の場)が減った
・過保護な傾向が強まった

③ ファミコン、テレビゲーム、音楽機器の普及

・外に出なくなり、友だちとの集団遊びが減った
・自分一人の世界に浸るようになり、人間関係に不慣れになる → 言葉での表現力が低下する



④ コンビニの普及

・夜型の生活化 → 生活のリズムが崩れる → 朝起きられない子どもの増加

こうしてみると、不登校は社会の変化がもたらしたある種の“文明病”とも言えます。総じて豊かな消費社会の子どもたちは経験不足・人間関係不足で、自立する力や他者と共生する力が十分に備っていません。学校はそういう子どもたちの集合体でもあるわけです。したがって、不登校は誰にでも起こりうることであり、本人を責めたり、学校に責任を負わせたりするだけでは解決できない問題なのです。

◆◆◆不登校の現状◆◆◆

不登校とは「何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因、背景により児童・生徒が登校しない、あるいは登校できない状況にあること(病気や経済的な理由によるものを除く)」をいいます。2010年の文科省調査では、小学生 21,675 人(0.32%)、中学生 92,296 人(2.74%)の児童・生徒が不登校であるという結果が出ています。

主なきっかけをみると、小学生は①不安など情緒的混乱 30.2%、②無気力 20.4%、③親子関係をめぐる問題 19.1%、④いじめを除く友人関係 10.8%、⑤病気による欠席 10.2%などで、中学生は①不安など情緒的混乱 21.9%、②無気力 21.8%、③いじめを除く友人関係 16.2%、④遊び・非行 11.0%、⑤学業不振 8.7%、親子関係をめぐる問題 8.7%などとなっています。つまり、学校・家庭・本人に係る状況がかなり複合しているわけです。

さまざまな事例を見ても、きっかけは人間関係のつまずきによるものが多いですが、その背景として集団での不適応、人間関係への過敏さ、病気がちな本人の抱える問題があり、更に、生活環境や親子関係など家庭生活に起因することや、学習の遅れなどが複雑に絡み合っていることが多いのです。したがって、多面的なアプローチで改善・支援できることを探すことが必要です。

◆◆◆家庭で気をつけること◆◆◆

□登校しぶりをふせぐために：

- ・早寝、早起きなど基本的な生活習慣を身につけさせる
- ・挨拶の習慣や人間関係を形成するのに必要な表現力を育てる
- ・家庭内での役割を与え、存在感や有用感を育てる
- ・過保護、過干渉は自立の芽を摘む
- ・戸外での集団遊び、運動、集団活動の機会を増やす
- ・テレビ、ゲーム、パソコン、携帯電話などには使用上のルールを作る(時間など)



□登校しぶりや欠席が続いたら：

- ・母親だけで抱えない → 父親との役割分担
- ・休んでいる間はリハビリ期間と考える → ダラダラ過ごさないで生活時程のリズムを作る
- ・朝起きられない、食欲不振、情緒不安定などが見られたときには専門医に相談する

◆◆◆学校で気をつけること◆◆◆

□登校しぶりをふせぐために：

- ・ルールと笑顔のある(温かみのある)学級づくり、学校づくり
- ・孤立している子がいないか目を配る(気配りも)
- ・日常的に声をかける
- ・居場所や、活躍できる場所があるか
- ・話ができる(相談ができる)人がいるか
- ・学力支援、学力補充

□登校しぶりや欠席が続いたら：

- ・電話連絡や家庭訪問などは早めに動く(3日を目安に)
- ・学校生活に起因する問題はないかを探る → いじめや友人関係が原因の場合は指導と再発防止に努める
- ・登校時(復帰時)に温かく受け入れる学級集団をつくる
- ・居場所や活躍できる場の確保
- ・本人とつながることのできる友だちを大切にする
- ・放課後学習などの学習支援を検討する
- ・担任だけで抱え込まず、チームで対応する
- ・定期的な声かけや訪問を怠らない



◆◆◆家庭と学校で協力すること◆◆◆

- ・互いに責めたり任せきりにしない → それぞれが支援できることを考える
- ・連絡を取り合い、状況や近況の把握に努める
- ・叱るより原因を探る
- ・行きたくても行けない、怠けではないことを理解し、理屈だけで迫らない
- ・本人の好きなことや得意なことを切り口に会話をする
- ・守れたこと、できたことは褒める
- ・派遣相談員、スクールカウンセラー、相談機関を活用する

◆◇◆適応指導教室とは◆◇◆

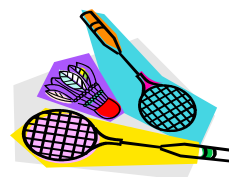
市町村の教育委員会が、長期欠席している小・中学生を対象に、学籍のある学校とは別に市町村の公的な施設に部屋を用意して学習や諸活動の援助をしながら、在籍校への復帰を目標に運営している教室です。ここへの出席は広義での出席となり、指導要録に記載されます。

元教員・教員免許所有者・臨床心理士などが指導を担当しています。

〈活動内容〉

- ・ 居場所の確保
学校よりもゆったりした時間で、生活リズムをつくる
- ・ 学習指導
学力や進度に合わせた個別学習の支援が多く、学習時間は学校に比べて少なめ
- ・ 集団活動の指導
体育的活動、音楽的活動、美術的活動、体験活動、レクリエーション、季節の行事など
- ・ カウンセリング、面談
- ・ 在籍校と連携した復帰支援と進路指導
- ・ 保護者会

*適応指導教室以外に民間のフリースクールやフリースペースなどもある



〈利用したい場合は〉

まずはご相談ください → 見学 → 体験・仮通級 → 入室願いを学校に提出
→ 学校長より教育委員会に入室願いの提出 → 入室許可

◆◇◆進学先はあるの？◆◇◆

不登校になっても、高校に進学することができます。ただし、調査書の点数が低かったりつかなかったりというハンディがありますので、慎重に学校を選ぶことが大切です。私立高校も、最近是不登校児を受け入れてくれる学校が増えてきて、本市の適応指導教室から有名附属高校に進学した事例もあります。

調査書の成績や基礎学力に不安がある場合は、都立高校のチャレンジスクールがお勧めです。チャレンジスクールとは、小・中学校での不登校や高校での中退を経験した生徒などこれまでの能力や適性を十分に活かしきれなかった生徒が、自分の目標を見つけ、それに向かってチャレンジする学校で三部制の単位制・総合学科の昼夜間定時制高校です。都内で6校あり、入試は学力検査や調査書ではなく、志願理由書・作文・面接で行います。

ほかにも通信制高校、サポート校(通信制高校と連携し、通信制高校に在籍する生徒が3年間で卒業できるように学習面や生活面で支援する民間の教育施設)、高等専修学校などもあります。

このように不登校になっても進路はあり、道を切り開くことができます。この春も、適応指導教室の卒業生が何人も大学合格報告に来てくれました。しかし、できるなら不登校になってほしくないと思うのは親として当然です。そのためには、日頃から子どもたちに、「自立する力ー自分のことは自分でやろうとする意欲ー」と「他者と共生する力ー自分以外の人とよい関係を作ろうとする意欲・態度ー」を育てていくことが大切です。そのコツは、上手に「褒め、叱り、待つ」ことにあるように思います。

* 無断での複製、引用、ネットへの掲載などは固くお断りします。問い合わせなどありましたら、下記までお願いいたします。

発行 武蔵野市教育委員会 教育部教育支援課 教育支援センター

所在地 〒180-0001 武蔵野市吉祥寺北町4-11-37